

Profile



Yuri Hiranuma



Iwao Furusawa



Wataru Mukai



Norimaru



Yasuchika Urata

平沼 有梨 (ひらぬまゆり)

京都生まれ京都育ち。4歳から音楽を始める。ものごころついた頃には、作曲して演奏する事が一番の遊びになっていたという。小中学生の頃の趣味は、絵を書くことと、オーケストラスコアを眺めること。

音楽大学在学中より全国各地でコンサート活動を始め、これまでにヨーロッパ各地、アメリカ、東アジア、東南アジアなど、海外ツアー、テレビ出演等も多数。

愛知万博や SONY、NISSAN、ミツカンなどの企業イベント、New Balance、住友林業、木下工務店などのCM、テレビ番組への楽曲提供などでも活躍中。また、古澤巖、佐藤竹善、森山良子、TFC(東儀秀樹、古澤巖、coba)などのアルバム曲アレンジなどにも携わる。

2013年、ルーブル美術館で行われたNoz Beauty Collectionでは、音楽制作と演奏を担当。同年、アイスショー『プリンスアイスワールド2013』の音楽制作と演奏を担当。荒川静香の演技曲「Nella Fantasia」、鈴木明子のソチ・オリンピックSP曲「愛の讃歌」音楽制作及び演奏を担当した。最近では、フィギュアスケートのみならず、新体操やバントフライングなどの競技でも彼女の楽曲が使用されている。KBS京都、BS11をはじめ各局でオンエアされた『西国三十三所 観音巡礼 祈りの旅』テーマ曲「祈りの旅」担当。寺社仏閣に囲まれて育った環境に加え、熊野本宮大社、金峯山寺などでの奉納演奏などを切掛に、近年、聖地と自身の音楽との関わりが増している。生まれ故郷である京都の、さまざまな文化と自身の音楽とを融合しながら、発信の継続を目指している。

これまでに出版された楽譜集多数、アルバム11枚をリリース。

最新アルバムは、京都・実相院の紅葉生中継のために書かれた「PARALLEL」が収録された『PARALLEL』。

古澤 巖 (ふるさわいわお)

カーチス音楽院、モーツァルト音楽院等で、20世紀の巨匠ミルシティン、ヴェーグ、ギトリス、チェリビダッケ、バーンスタイン等に師事。

今までにヨーヨーマ、高橋悠治、プレトニョフ、グラッペリ、石井竜也、フミヤ、平沼有梨と共に、フィギュアスケーター等と共演。

'86年夏、大学1年生の葉加瀬太郎とバンド結成、'90年代は外国人ピアノ四重奏「タイフーン」及びフランスナショナルメンバーと年間150公演を行う。

現在は、葉加瀬太郎、高嶋ちさ子との「三大バイオリンスト」及び、東儀秀樹、cobaとの「TFC55」メンバー。

12月のベルリンフィル・メンバーとのツアーでは、イタリアの作曲家マリーノ作品の世界初演を続けている。

ストラディバリウス「サン・ロレンツォ1718」を宗次コレクションより貸与。

Eテレ「旅するイタリア語」ではナポリ、アマルフィを担当。

現在、年間150公演を行う傍ら、洗足学園音楽大学客員教授、日向へべす大使、足利輝き大使、イタリアワイン・アンバサダー、COCO FARM WINERY取締役、テラモスレーシングチーム所属。

最新アルバム「スウィング・フォーガ」では、TAIRIKU等とマリーノの弦楽四重奏を収録。

向井 航 (むかいわたる)

関西フィルハーモニー管弦楽団特別契約首席チェロ奏者。

ナガノチェンバーオーケストラ、ピアノトリオ「まつきとわたるとはなこのトリオ」、ハーモニーホール福井レジデント弦楽四重奏「DINO quartet」、チェロユニット「CANTHANA」各メンバー。

東京芸術大学音楽学部附属音楽高校卒業。同大学を経てハンガリー国立リスト音楽院に留学。帰国後、Vn室屋光一郎と「クラスタシア」を結成。5枚のアルバムをリリース。

映画「ラプラスの魔女」、大河ドラマ「真田丸」でのチェロソロなど、劇伴音楽、CM、J-POP、海外映画、海外アーティストの多くの作品で録音している。

「向井航と仲間たち楽団」を主宰し、菅野よう子作品(NHK大河ドラマ)、久石譲作品、森山良子作品などを録音。

ソリストとしてこれまで札幌交響楽団、関西フィル、京都フィル、Georgia sinfonietta、Tbilisi konservatorium orchestraと共演。

国内外のオーケストラからゲスト首席奏者として招聘され、Georges Enesco Festival、Tbilisi baroque festivalなど世界各国で演奏する。

祝丸 (のりまる)

2004年に和太鼓デュオ「黒拍子」を創設。

日本の古典芸能家や民俗芸能、また演劇や現代アーティストらとの共同作業を通して、日本の太鼓音楽や舞台における創造活動を展開している。

2009年より海外のアーティストらとの共同制作にてカナダ・フランスツアーを展開。また韓国において舞踊と音楽の即興公演などに多く関わる。

その他NHKの大河ドラマなどに楽曲提供・出演も行うなど、その活動は多岐にわたる。

日本の太鼓音楽を主軸としながらも、独自の演奏スタイルと即興性を持ち、邦楽に捉われることのないクロスオーバーな活動は観るものに新たな風景を提示する。

2013年、芸創CONNECTやなぎみわ審査員特別賞。

2015年、伊丹市芸術家協会新人賞。

浦田 保親 (うらたやすちか)

能楽師。

観世流 能楽シテ方。

重要無形文化財 総合指定保持者。

京都市在住。

1967年、観世流職満 浦田保利の次男として生まれる。

父 浦田保利、大槻文蔵に師事。

3歳で、初舞台・仕舞「春榮」、以後数多くの子方(子役)を演ずる。10歳で、初シテ「狸々」その後、「石橋」「狸々乱」「道成寺」「望月」「翁」「安宅」等の大曲を演ずる。イギリス・アメリカ・ギリシャ・モンゴル等、海外公演にも多数参加。

1994年、兄 保浩や同年代の囃子方や狂言方たちと、メンバーの技芸の向上と能狂言の更なる普及を目的に、能狂言グループ「心味の会」を結成。

わかり易い解説をつけた能狂言公演や、照明を使った演能、英語によるセミナー、学校や幼稚園での講演、実演・体験を交えたワークショップ等各地での開催。

1999年にスペインの国際音楽祭に「心味の会」として参加するなど、2009年まで活動。「能への橋がかり」と題した能楽体験講座を、各地にて開催。

2005年、京都芸術センター主催「継ぐこと伝えること番外編」にて様々なジャンルの方々とのコラボレーション演劇「青頭巾」に主演。脇田晴子氏作詞による新作能「石見銀山」「問わず語り」を手がけるなど、幅広く活動。

また、札幌・大垣・京都・堺・神戸・奈良・松江に教室をひらき、愛好者に指導。

京都橘大学能楽部講師。

(社)京都観世会理事・京都能楽会理事。

「浦声会」「ちかの会」等主宰。